

健康 ぷらざ

早く発見して、治療を始めよう

— 関節リウマチ —

指導：近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科 教授 宗圓 聡

企画：
日本医師会

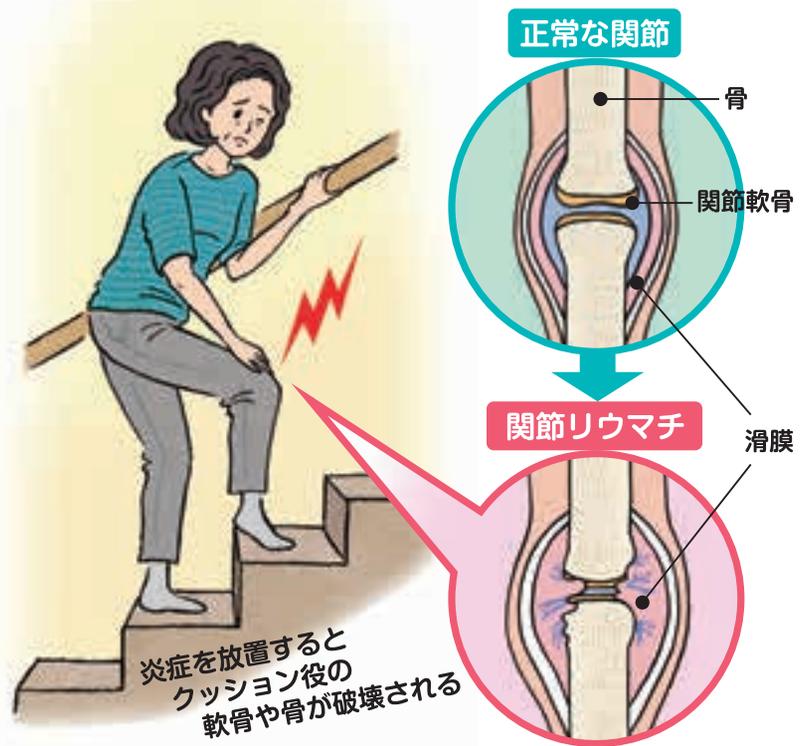
No. 419

関節が破壊される!?

関節リウマチは、多くは手や足から始まり全身の関節の炎症によって腫れや痛みがおこる病気です。男性より女性がかかりやすく、30～50代の発症が多いといわれています。

関節の炎症を放置しておくと、軟骨や骨が破壊され変形したり、滑膜かつまくという部分が増加して動きが悪くなったりします。軟骨や骨の破壊は、発症してから半年以内に始まることが多く、最初の1年間に急速に悪化します。

日常生活の動作が思うようにできなくなるなど、生活の質(QOL)が低下します。



一ヶ所以上の関節炎がある
(他に関節炎がおこる疾患ではないことが
確認されている)

「腫れや痛みがおきている関節の数」や
「症状が出ている期間」など
4つの診断項目の合計点で分類

合計点6点未満

合計点6点以上

関節リウマチと
分類できない

関節リウマチと
診断する

図 関節リウマチの診断基準 (ACR/EULAR 予備診断基準 改変)

治療の一步は、早期診断から

関節リウマチがおきる原因はわかっていないため、予防ができません。一度関節が破壊されると腫れや痛みとうまく付き合っていかなければならない慢性の病気です。

したがって、炎症が悪化する前に治療を始めることが大切です。

関節リウマチは、2010年に図のような基準が作られ、これまでより早く診断できるようになりました。

新しい薬の登場で、治療法の広がりも

これまでの治療は、腫れや痛みを軽くして、日常生活の動作を改善することでしたが、新しい薬の登場により、炎症と関節の破壊を抑えることもできるようになりました。

関節が腫れていたり、手足がこわばるなどの気になる症状があるときは、医療機関を受診してください。